

# 肺がんの診断・治療について

外科 鍵本 篤志

今年度から公立世羅中央病院の外科に赴任いたしました、鍵本と申します。これまで広島大学病院や東広島医療センター、呉医療センターで肺がんを中心に診療を行って参りましたので、肺がんについての紹介をしたいと思います。

肺がんとは文字通り肺にできる・肺から出てくるがんのことです。その罹患率（その病気になる・発見される率）は男性では前立腺がん、胃がん、大腸がんについて4位で、女性では乳がん、大腸がんについて3位となっています。一方で死亡率は男性で1位、女性では大腸がんについて2位となっており悪性度が高いがんと言えるでしょう。

肺がんの治療は多岐にわたり、近年目覚ましく進歩しています。がんの治療を考える際には、発生する場所だけではなく、ステージという進行度が重要です。ステージは数値が増えるごとにがんが進行しているということを示します。肺がんの場合はこの分類がかなり複雑です（これだけで本が1冊書けるくらい）。簡単に書くと、

- ステージ1：肺の中だけにとどまっている。
- ステージ2：近くのリンパ節に転移している。
- ステージ3：少し離れたリンパ節に転移している。
- ステージ4：他の臓器（骨・脳など）に転移している。

というように分類されます。

CTやMRI検査、気管支鏡検査を行い診断・ステージを決定します。

ステージや患者さん個々の状態や体力、肺がんの中の細胞のタイプ等を考慮しながら、患者さんと一緒に治療法を選択していくことになります。詳しく書くと本が何冊も書けるくらい複雑ですが、簡単に書くと、

- ステージ1～2→手術
- ステージ3→手術もしくは薬物治療（場合によっては放射線治療も）
- ステージ4→薬物治療

といった治療を行っていくことになります。

もちろんがんの大きさによっては適用できないこともありますが、胸腔鏡を使って小さな傷で行う手術や、肺を切る範囲を小さくする手術が一般的になっており、近年は体に優しい手術が行われています。

また、薬物治療でも免疫の力を使った薬剤（話題になった“オプジーボ”という薬剤など）や、腫瘍の細胞の遺伝子変異に応じた薬剤など新しい治療法が出てきており、生存率は改善してきています。

しかしながら、予防や早期発見に勝る治療はありません。肺がんの一番の原因は喫煙です。まだこちらに赴任したばかりではありますが、たばこを吸われている方が多い印象です。今からでも遅くありません、肺がん以外にもたばこが原因となる病気はたくさんあります、たばこはやめましょう。

また、たばこを吸われない方でも運悪く肺がんになることはあります。ぜひ検診もしくはかかりつけでレントゲンを時々撮ってもらうようにして下さい。まだ一般的にはなっていませんが、喫煙者の方では定期的なCT検診が生存率を改善するというデータも出始めております。何か気になることがあれば気軽にご相談頂けたらと思います。

## オンライン面会を行っています。

予約制となっておりますのでご希望の方は  
公立世羅中央病院 ☎0847-22-1127へお問い合わせください。

